

(様式第5号)

調査研究追跡調査報告書

調査研究課題	C型肝炎ウイルス (HCV) のスクリーニング検査法に関する検討
研究期間	平成 13 年度 ~ 年度 1 年間
目的	<p>我が国では年間 33,000 人(1998 年)もの人が肝がんで亡くなっている。また、その予備軍である HCV 持続感染者 (viremia) は 200 万人とも言われ、本県にも多くの viremia がいるものと思われる。</p> <p>茨城県では昨年 6 月から「保健所等における C 型肝炎ウイルス抗体検査事業」が始まった。測定系は日本赤十字社血液センターで採用している PHA 法により実施している。本法は、スクリーニング検査法であるとともに viremia を拾い上げることが可能であるが、コストと手間がかかることが課題である。</p> <p>そこで、定量域の広い測定系を用いることによって viremia をより簡便で効率的かつ高精度に拾い上げることができると否かを検討した。</p>
成果の概要	<p>定量域の広い COBAS CORE (ロシュ) を用い、PHA 法で検査した 1248 検体について抗体検査を実施した。さらに、各々の測定系で陽性となった検体については、遺伝子増幅法(PCR 法)により HCV RNA の検出を試みた。その結果、PHA 法においては、抗体価の高い群 56 例中 54 例(96.4%)、中等度の群 22 例中 2 例(9.1%)から RNA が検出され、低い群(6 例)の中からは検出されなかった。一方、EIA 法では、測定値が高い群 49 例中 46 例(93.9%)、中等度の群 10 例中 8 例(80.0%)、低い群においては 38 例中 2 例(5.3%)から RNA が検出された。</p> <p>以上の結果から、定量域の広い EIA 法を用いた場合でも、PHA 法と同様に抗体陽性者を PCR 法を行わなくても viremia であると判定することが可能である群、同じく viremia ではないと判定することが可能である群、PCR 法により viremia であるか否かを確認することが必要である群の 3 群に分けることが可能である、ということがわかった。そして、EIA 法の場合、PCR 法を必要とする例数は PHA に比べ約半分であり、しかも、検出率は 9 倍も高いことがわかった。PCR 法は、コストが高く手技も煩雑であるため、できるだけ避けることが望まれ、HCV ウイルス検診に定量域の広い測定系を導入すれば、より簡便で効率的かつ高精度に viremia を拾い上げることが可能であることがわかった。</p>
成果の普及・活用のために行われた活動等の実績	地方衛生研究所全国協議会の第 16 回関東甲信静支部ウイルス研究部会 (於 長野市) 及び第 61 回日本公衆衛生学会総会 (於 さいたま市) において、本研究の成果を発表した。

普及・活 用の状況	<p>平成 14 年度から「保健所等における C 型肝炎ウイルス抗体検査事業」が定量域の広い EIA 法で行われることになった。また、同年度からは各市町村においても住民健診の中に肝炎ウイルス検診が導入され、その受託健診機関でも本測定系が採用された。</p> <p>ところが、年度半ばころ、住民健診において、低抗体価を理由として一旦「感染している可能性が極めて低い」と判定された住民に対し、急遽再検査が実施されることになった。低抗体価群の中に viremia が含まれていることがわかったためであるが、このことは本研究の課題として示唆したものである。</p> <p>このような行政サービスにも密着した問題に対処できるよう、県保健予防課や県内の健診機関等と速やかに研究協力体制の構築を図ることが必要がある、と考えられた。</p>
--------------	--